

国語 第3学年 こんな係がクラスにほしい 授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書出版『国語（令和6年度版）』の9月配当を基にした授業案。教材本文・台詞・挿絵は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

学級で必要な係について目的を共有し、理由を比べながら考えをまとめる。人気投票だけで決めない。単元の終わりに残すのは、提案、目的、理由、共通点と相違点、まとめた案と残る課題の記録。教材についての感想に加え、どの言葉をどう捉えたかが見える記録にする。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第3学年及び第4学年〕〔知識及び技能〕(2)ア	ア 考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。
〔第3学年及び第4学年〕A 話すこと・聞くこと(1)オ	オ 目的や進め方を確認し，司会などの役割を果たしながら話し合い，互いの意見の共通点や相違点に着目して，考えをまとめること。

単元の目標

考えと理由や事例の関係を理解できる。話し合いの目的と進め方を確認し、意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめられる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①考えと理由や事例の関係を理解している。〔〔知識及び技能〕(2)ア〕	①「話すこと・聞くこと」において、話し合いの目的と進め方を確認し、意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめている。(A(1)オ)	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

単元の流れ

光村図書出版の年間指導計画による全3時間（話・聞③）。総時数は出典に従い、各時間の活動と本時の選定は本案の提案として組んでいる。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○学級の困りごとと目的を確かめる。	学習状況を見て支援する。
	2	○理由を付けて係を提案する。	学習状況を見て支援する。
	3 （本時）	○役割をもって共通点と違いを比べる。目的に合う案をまとめる。	知①・思①（発言・学習記録）

本時の案

本時の目標：話し合いの目的と進め方を確認し、意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめられる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （ 分）	本時に使う教材・前時までのノートを確認し、自分の最初の考えを短く書く。 ○「その係は、学級のどんな困りごとを解決しますか」 【めあて】学級で必要な係について目的を共有し、理由を比べながら考えをまとめる。 〈予想される児童の反応〉 ・同じ目的でも仕事の案が違う。	本時に考える対象を確認し、既に分かったことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 （ 分）	○「その係は、学級のどんな困りごとを解決しますか」 司会・提案者・記録者の役割を確認し、困りごとと係の案を理由付きで提案する。聞き手は仕事内容が目的に合うか質問する。司会は共通する案と違う案を整理し、理由を比べてまとめる。まとまらない点も理由付きで記録し、単に多数決で終わらせない。 〈予想される児童の反応〉 ・同じ目的でも仕事の案が違う。 ・今ある係でできる仕事かもしれない。 ・理由を聞くとまとめられる案がある。	独自例として図書を探しやすくする仕事を挙げ、目的と仕事内容を分ける。司会・記録などの役割を決め、共通する理由と異なる理由を板書で比べる。 想定するつまずき：自分がやりたい活動だけを主張する、司会が一人で結論を決める。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 話し合いの目的と進め方を確認し、意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめている。（発言と学習記録） ◎知① 考えと理由や事例の関係を理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア）（使った言葉・音読や表記の確認）
まとめ （ 分）	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって分かったことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・理由を聞くとまとめられる案がある。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った具体的な言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って自分の表し方を確かめる。 ◎態①（学習前後の記録と、見直した理由）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

右端に教材名とめあて、その左に問い「その係は、学級のどんな困りごとを解決しますか」。中央は児童が使った語や文の例を並べ、確かめる箇所に印を付ける。その左に直す前と後の表現を並べ、変えた理由を線で対応させる。左端に、今日確かめた言葉の使い方を児童の言葉でまとめる。縦書きで右から左に学習の順をたどる。

つまずきやすい所と手当て

つまずきとして、自分がやりたい活動だけを主張する、司会が一人で結論を決める。この場合は、独自例として図書を探しやすくする仕事を挙げ、目的と仕事内容を分ける。司会・記録などの役割を決め、共通する理由と異なる理由を板書で比べる。おおむね満足できる状況は、話合いの目的と進め方を確認し、意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

プリントの案

単元の学習メモ

提案、目的、理由、共通点と相違点、まとめた案と残る課題の記録。教科書の文章・図は印刷せず、自分で確かめた箇所の見出しや、自分の言葉で内容を記す欄にする。

交流と見直しの記録

交流前の自分の考え、友達が伝えた言葉、その後の自分の考え、変えた又は残した理由を並べる。友達の考えに合わせることを求めず、判断の理由が分かるようにする。

出典：光村図書出版 年間指導計画。教材名・配当時数・時期・重点項目の出典。年間指導計画例 Excel（3年）「3年上巻」111行目（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/7ff6b471-db8d-470a-968a-a9899624022a/368）／文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）。原文は手元の公式表の写しと照合。

（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語。評価規準の観点と記録の考え方。

（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

